

女性役員として頑張るスタッフを支援

高齢者福祉施設や病院などに給食を提供している株式会社ラフトの取締役総務部長を務める岩崎純子さんは、平成11年、47歳で設立3年目の同社に入社。総務・経理の仕事を一任され、試行錯誤しながらシステムを整備してきました。6年前に同社で2人目の女性役員に就任。現在は、総務部長として、また経営陣の一人として、スタッフのワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいます。

株式会社ラフト 取締役総務部長
岩崎純子さん

創生期から総務・経理の仕事を担当

子育てが一段落し、仕事を探していた岩崎純子さんは、ある日、自宅近くにある老人施設での配膳の求人広告を見つけました。午前中勤務のパート職ということで、希望していたフルタイム勤務ではありませんでしたが、とにかく働こうと求人先の株式会社ラフトと契約。「面接で長時間働きたいと希望を伝えたら、午後には事務の仕事をやってみないかと言ってくれました」

当時、設立3年目の同社は、スタッフが10人ほどで、総務・経理のシステムはまだ何もできていない状態。事務を担当するのは岩崎さんただ一人でした。

「午前中は現場で配膳、午後は覚えたてのパソコンで事務の仕事という毎日。要求されることに応えられるよう、自宅にもパソコンを購入して、必死でワードやエクセルの使い方を覚えました。そのうち、自分なりに工夫するようになり、請求書や受注票の書式をパソコンで作成しました」。入社半年後には正社員に昇格。3年目からは事務仕事に専念するようになりました。そのころには新しいスタッフも入り、部下を持つようになっていました。

年月とともに会社はさらに成長。給食を請け負う施設も、社員数も増えていきました。それに伴って、労務管理や給与体系管理など新たなシステムの整備が必要となり、岩崎さんは試行錯誤しながら、会社の総務部門の土台づくりに励みました。「とにかく勉強しなければいけないことが山積みでしたが、会社の成長とともに、自分も成長しているように感じられ充実感がありましたね」と、奮闘していた時期を振り返ります。

スタッフの仕事と家庭の両立を支える

平成20年、取締役に就任。株式会社ラフトで2人目の女性役員の誕生でした。「入社してから会社が成長していく様子を見てきたので、取締役就任の打診を受けた時は、これからも社業を支えていきたい、経営に携わりたいと思いました」

同社の評価基準は当初から「頑張っているかどうか」。性別や学歴で人を区別しません。岩崎さんのスタッフに対する思いも同



「会社とともに自分も成長できた」と話す岩崎純子さん

じです。現在、総務部のスタッフは、部長以外の3人が全員パート職で、子育てや介護と仕事を両立させています。

「子どもやお年寄りはいつ病気になるかわかりません。そんな時、気兼ねなく休めるように、私を含めた4人の仕事の風通しを良くしています」。普段からコミュニケーションを取り、誰がどんな仕事をしているかを全員が理解し、いつでも代わりにできるようにしています。

また、岩崎さんはスタッフの仕事ぶりを観察して、「ちょっと変だな」と思えば声を掛けるなど対話を心掛けています。

「それまで上司としての経験がなかったので、部下ができた当時は、感情でものを言ってしまい、スタッフを失ったこともありましたが、二度と同じ失敗をしないよう、判断と指示は明確にしますが、そのあとは彼女たちを信頼して任せています」

47歳で再就職し、以降の人生がそれまでと大きく変わった岩崎さん。予想もできなかった仕事中心の毎日に「自分が一番驚いている」と笑います。家族、特に大学で教壇に立っている娘さんとは、仕事の悩みや愚痴を言い合えるいい関係だそうです。

「私自身、仕事を得たことですごく成長できましたし、充実感や達成感を味わっています。社内のスタッフにもできるだけ仕事を続けさせてあげたい。子育てや介護だけでなく、勉強や留学など、自分が今やりたいことと仕事を両立できるような会社になりたいと思います」と岩崎さん。「頑張るスタッフをこれからもさまざまな角度から支援していきます」と語ってくれました。



岩崎さんは仕事と家庭の両立を目指すスタッフたちの目標でもあります。